

“絆”きずな

訪問リハビリテーション・フォーラム2018 パートⅠ開催のお知らせ

今年度は、2018年の医療介護保険同時改定を踏まえた在宅リハビリテーションの指針を確認するとともに『他職種との協働』をテーマとしました。特別講演は、厚生労働省担当官から「2018年度診療報酬・介護報酬改定からみたリハビリテーション専門職に期待すること」、基調講演は在宅医療に従事されている医師から「在宅医療からの訪問リハビリテーションに期待すること」。シンポジウムでは、訪問リハビリテーションと訪問看護の協働、訪問リハビリテーションと介護支援専門との協働、訪問リハビリテーションと訪問介護との協働について、課題を共有しながら対策を討論し、一定の方向性をまとめていきます。

一般の方、医療関係・福祉関係職種の方々にご参加頂けますので、お知り合いの方お誘いあわせの上、お越しいただければ幸いです。

日程：平成30年5月20日（日） 9：30～12：50（受付8：45～）

会場：東京ビックサイト（東京国際展示場）レセプションホールB

参加費：1,000円

特別講演 鈴木 健彦 氏（厚生労働省 老健局 老人保健課 課長）

基調講演 柏木 潤一 氏（柏木クリニック 院長）

シンポジウム

中林 弘明 氏（日本介護支援専門員協会 常任理事）

佐藤 美穂子 氏（日本訪問看護財団 常務理事）

馬袋 秀男 氏（『民間事業者の質を高める』全国介護事業者協議会 特別理事）

事業所リレーエッセイ パートⅡ ゆずる

私の古里は、岩手県釜石市です。ゆずるのある宮古市同様、東日本大震災で被災した地であり鉄の街、ラグビーの街です。震災当時、私は内陸で生活していましたが、震災から10日後変わり果てた古里を目の前に、色のない世界はこんな感じなのかと愕然としました。様々な方の思い出が詰まった街並みが無くなり、支援活動を行っていても無力感が積み重なる日々でしたが、そんな中、今まで聞いたことのない両親の思い出話をたくさん聞く機会を得る喜びがありました。現在、縁あってゆずるで働き始めて1年になります。様々な思いを抱いて、ひたむきに目の前の難題に向き合っている利用者様とたくさん語り、利用者様が笑顔あふれる充実した日々を過ごせるように尽力していきたいです。

この場をお借りして、皆さまの多大なるご支援に感謝申し上げます。

一般財団法人 訪問リハビリテーション振興財団 金澤 静絵

宮古・山田訪問リハビリステーションゆずる 理学療法士

南から始まる「訪問リハビリテーションの魅力紹介」 滋賀県

私は、作業療法士（以下OT）です。皆さんには、皆さんを「今の姿」に導いた原点の様な関りがありますか。私のOT原点は、30年程前の方々との訪問での関りです。院内OTから退院支援の後、当時新設された「寝たきり老人訪問リハ管理指導料」で関わった方々です。入院中から行う様々な視点でのADL他、作業介入後の在宅環境における生活支援、好きだった作業支援や家族団らん支援。そんな関りはOTに悩む私にOTの魅力を実感させてくれる「原点」となりました。当時、品揃えの無いポータブルトイレやベッドに様々な工夫をしたり、片麻痺の方にゲートボールに参加していただくためのスパークデバイスを考案したり、油絵をすすみ共に学ぶことで痛みを忘れる時間を過ごしたり。「その方の思う場所で、生活を、家族を、支える喜び」を感じさせてくれました。在宅での訪問リハの経験が、今の私の原点です。

滋賀県訪問リハ・地域リーダー 作業療法士 石黒 望
近江温泉病院 総合リハビリテーションセンター